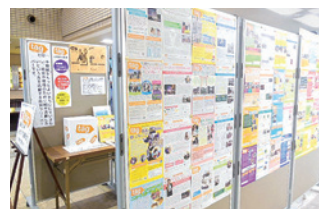


100号でふりかえるtagajoの価値発見!

「tag」が100号を迎えたのを記念して展示イベントを開催します。これまでの誌面の展示や創刊からの歴史を振り返るコーナーなどをご用意しております。多賀城で活動している団体・人についてもっと知りたい、地域で何か始めるにあたっての参考にしたいという方はぜひご来館ください。



50号記念展の様子

2017年2月、創刊50号発行時に多賀城市役所で開催された記念展の様子。

「tag」創刊100号記念展

- 会場** 多賀城市市民活動サポートセンター
1Fエントランス・2Fフリースペース
- 日程** 2022年10月13日(木)～25日(火)
- 会場** 多賀城市立図書館 2階共有スペース
- 日程** 2022年11月1日(火)～13日(日)
- 会場** 多賀城市役所 1階ロビー
- 日程** 2022年11月15日(火)～25日(金)

ヒント from

たがさぽ Press

たがさぽのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します!

HINT! 01 たがさぽ新情報誌「tag」創刊

2013年1月17日(木)掲載



HINT! 02 たがさぽの情報誌「tag」が50号を迎えます!

2017年2月13日(月)掲載



HINT! 03 ここから～もうひとつの多賀城ガイドブック～発行!!

2019年3月31日(日)掲載



たがさぽホームページ

多賀城市市民活動サポートセンター



@tagasapo



たがさぽPress

たがさぽスタッフによるブログ



You Tube たがさぽチャンネル



tag アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!



以下のような情報もお待ちしています!

- 自分たちの団体を取材してほしい
- こんな話題を取り上げてほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている



What's?

tag.

「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



たがさぽとは?

多賀城市市民活動サポートセンター(通称たがさぽ)は、「もっとまちを良くしたい!」「地域にあるいろんな困りごとを解決したい!」という想いをもって、地域でさまざまな活動に取り組む市民のみなさんを応援する「地域づくり」の拠点施設です。

発行:多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣・上下水道部向かい)
TEL:022-368-7745 / FAX:022-309-3706
発行:2022年10月
編集:NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター



tag.



「tag」は100号を迎えました



▲【左から】第1号(2013.1)創刊!タガレンジャー参上! / 第4号(2013.4)カラーに! / 第64号(2018.4)リニューアル! / 第98号(2022.6)デザイン一新!

「tag」は多賀城をより暮らしやすくするため・盛り上げるために活動するみなさんにご登場いただきました。これまで取り上げた活動は、延べ279団体。バックナンバーの中にも、活動を始めるきっかけや取り組みのヒントなど、新しい発見があるはずです。今後も「tag」という名前に込められた「タッグを組む」「新しいタグをつける」という視点で、多賀城のヒト・コト・モノを紹介していきます。



▲第1号を手にする、活動10年目のブルータグジョー(左)とリーダーの多賀城あやめちゃん(右)。

記念すべき第1号の表紙を飾ったのは地域盛り上げ隊タガレンジャー。東日本大震災後、多賀城あやめちゃんの「悲しんでいる人たちにできることは何だろう」という想いから活動を開始。第1号発行当時は、多賀城だけではなく他のまちへも毎週のように出向き、イベントで復興へ向けて地域を盛り上げてきました。

地域の役に立ちたいという想いを持ち続ける中で、今後は募金活動への協力など、新たなことにも取り組みたいと話します。

みなさんからの温かい声援にささえられ、地域に元気と笑顔を届け続けます。

多賀城発で多賀城着。

ヒト・コト・モノを届けます。

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援するフリーペーパーです。

これからの多賀城につなぐ279のタグ

タガレンジャーの活躍の様子は、第1、12、47、58、74号など「tag」の他の号でも見ることができます。バックナンバーはホームページでご覧いただけます。



▲多賀城を思い、今年多賀城あやめまつりでは、コロナ撲滅の想いを込めてマスクの配布を行いました。

イベント等出演のお問い合わせ

連絡先(マネージャー)

080-3193-7985

フェイスブック





みんなで考える多賀城のこと

Tagajo Future セッション

～みんなで育むわたしたちのまち～

今まで「tag」で活動を紹介した団体の中から、異なるテーマで活動する異年代の方々に、それぞれの視点で多賀城の魅力や課題、未来に向けてできることについてお話いただきました。



高崎こども食堂らっこ広場
大友みどりさん

経済的または何らかの事情で困っている世帯の“こどもたちのおなかと心をいっぱい”にしながら、“地域の大人を巻き込んだコミュニティを作る”という想いをもって活動しています。



多賀城市ジュニアリーダー「エステバン」
すずらんさん／ベネロペさん
(エステバン・キャンブネーム)

市内の中学1年生から高校3年生までの年少指導者の有資格者によるサークル。地域における異年齢間の交流を活発にする活動をしています。



タガの柵 株式会社多賀城DMC
松村正子さん

多賀城のガイドツアーやイベントなどを開催しているコミュニティカフェ・タガの柵の運営など、まちの資源を生かし地域活性化を目指して活動しています。

まちの魅力を知る、伝える

松村 2012年にUターンで多賀城に戻ってきて、市民活動をしていた親の手伝いを始めたことで「多賀城を盛り上げたい」という想いの方たちとのつながりができました。歴史や食べ物、お店の特徴など、多賀城のいろいろな魅力を教えてもらううちに、それが一部の人しか知らないのはもったいないと思うようになって、まちのことを紹介するためのガイドツアーやコミュニティカフェを始めました。私は歴史や史跡はもちろん、地域のお店や商品を残していくことが課題だと思っています。個人商店は後を継ぐ人がいなくて今の代で終わってしまうという話を聞くことも多くて、とても悲しいです。観光に来た人にとっては食べたり買ったりすることも楽しみのひとつじゃないですか？私が継げればいいんですけど、体ひとつでは無理なので、残せるなら残してほしいというのが私の願望です。

——まちの魅力に気づいたのは、いろいろな人と出会ったことが大きかったですか？（聞き手：たがさぼスタッフ）
松村 高校生の時にアメリカにホームステイに行ったんですけど、ホストファミリーに自己紹介する時に、なんとなく「歴史的なまちから来ました」としか言えなくて、どういう歴史なの？って聞かれても具体的に答えられなかったほどです。出会った人の中には、多賀城に愛着をもって深く学んだ人もいて、そういう人たちから刺激を受けて私ももっと知りたいと思うようになりました。学校で学ぶ機会があってもいいと思うくらい多賀城の歴史は価値があると思います。

ベネロペ 私は学校の行事で古代米を育てたり、壺の碑の見学に行ったり、校外学習で歴史を学ぶ機会がありました。見に行く、育てるという体験ができて楽しかったです。

大友 私も松村さんのガイドツアーに参加したことがあります。史跡を巡って説明を受けたことは今でも鮮明に覚えています。学んだことを生かして、台湾からの留学生に史跡案内をしたこともあります。まちの魅力や特色を伝えることができ、とても喜んでもらえました。自分が体感して学んでおくことは大事だと思っていました。

松村 ただ説明を読むだけより、人があいだに入ることを受け取る側の印象は違いますよね。人と人とがつながることで伝わっていくというのが理想です。一人ひとりが市外から来る人にまちの魅力を伝えられるようなガイドができるようになればいいですね。

子どもたちのために力を合わせて

大友 こども食堂を始めたきっかけは、約6年前、小児科医でもある団体の代表が日々の診察で、ごはんをしっかりと食べていないのでは？と感じる子どもたちが増えたことです。少しずつ口コミで広がって、コロナ禍前はボランティアを含めて市内全域から40人ほどが集まってごはんを食べるまでになりました。今は集まることができないので、お弁当や食材をお渡しするだけになっていますが、どうやら必要としている人に届けられるのかというのが課題です。また、今年3月の地震で活動場所が使えなくなってしまったという問題もあります。集会所を利用するという案もあったのですが、地域ごとに利用に制約が



▲「子どもたちの反応を直接見ることができ、元気をもらうこともできる。ありがたい活動だと感じています」と話す大友さん。

“つながり”から生まれるもの

松村 みなさんの話を聞いて共通すると感じたのは、人と人とのつながりの大切さです。人とつながることは刺激ももらえますし、お店やガイドでお客さんと交流して喜んだり楽しんだりしている姿を見るのが一番の原動力になっているので。興味があるとか、課題意識を持っているとか、人の役に立つんじゃないかと思ったこととかを個人で発信したり、誰かにちょっとお話するだけでもいいと思うし。
大友 対象者の子どもたちと直接話をする必要があると感じました。「どんなことをすれば幸せに生きていける



▲小説など、興味のあるジャンルから入って、多賀城の歴史的な価値を知ってほしい」と話す松村さん。

あって、住んでいる地域がバラバラな人が集まる私たちのような団体は使えないこともあります。今後は、そういった地域の垣根を取り払う働きかけもしていく予定です。みんなで子育てを応援していくシステムづくりができればいいのかな。

——市内にはこども食堂は他にもあるんですか？

大友 4団体あります。いい情報は私たちがだけを受け取るんじゃなくてみんなで共有して、問題点もみんなで協力して解決策を見出すようにしています。

——それぞれが持っている力を合わせて活動しているんですね。食材もそれぞれの家庭で食べきれなかった賞味期限に余裕のあるものを寄付していただいて生かしているんですね。

大友 はい。届いたものを見た瞬間、胸がいっぱいになります。

すずらん 私はこういう活動があるのを初めて知りました。各地域にこのような場所が増えたらいいですね。

松村 同じ活動をしている方と連携を取っているのはすごくいいことだと感じました。そういうまとまりがあるからこそ、みんなの要望・意見ということで聞いてもらいやすいと思うので、ひとつの声として届くといいなと思いました。

セッション
を終えて

参加者のみなさんから、今後のまちづくりのキーワードとして「人と人とのつながり」という言葉が挙がりました。「地域を支えるコミュニティづくり」は、たがさぼが大切にしていることのひとつです。今後も、世代、分野、セクターを越えたいろいろなかたちの“タッグ”が生まれる場として、たがさぼはさまざまな活動に取り組んでいきます。その“タッグ”がまちの力になることを願っています。